



和空間を彩る畳縁
いま、日本の古いが新しい。
詳しくはお近くの畳店様、
もしくは設計事務所様にご相談ください。



畳縁で作った「本のしおり」
手芸材料としてお楽しみください。



縁結びの神様

奈良時代(712年)に完成した日本最古の歴史書「古事記」の中に、薦畳、皮畳、絹畳、木綿畳などが登場します。また、正倉院には、現存する最古の畳として聖武天皇の「御床畳残月」が、保存されています。「床に真菰ましろの筵いむしろ六枚を重ね、ところどころ麻糸で綴じ、その表に蘭筵、裏に麻布を取り付け花紋錦の縁を取ったもの」との畳に関する記述があります。

畳縁の歴史は、畳の歴史とほぼ同じとされています。畳縁は古来より、畳としての品位品性を保つ効果、装飾性や伝統性を高める効果、耐久性を補強する効果などがあり、実用性と装飾性の上から、当時既に不可欠の存在になっていました。

「畳」の語源は「たたむ」

「畳」は元々は、莫産・筵・菰など、敷物を総称する呼び名であり、座ったり、寝たりする時以外は、折り畳んでしまっておくことから、動詞である「たたむ」が名詞化して、「たたみ」になったのが畳の語源とされています。

「多当紙の由来」

「多当紙」は「畳紙」とも表現され、「たとうし」と読みます。着物を畳の上で折り畳む際に使用する紙は、「畳紙」と呼ばれ、いつの時代からか「多当紙」と表現される様になりました。折り畳んで使用する紙すべてを「多当紙」と称していた様です。お金を包む金封もその一つです。

「折り畳む」を共通の由来とする畳紙、多当紙、そして畳。この畳紙、多当紙に、畳縁をはさむことにより誕生したのが、「縁結びの神様」です。

畳縁の「縁」は、縁起物の「縁」、ご縁の「縁」、縁結びの「縁」、大切な方々にご縁を結び、ご縁を広げていくお手伝いをさせていただきたい、「縁結びの神様」にはそんな思いが込められています。

高田織物株式会社

〒711-0904 岡山県倉敷市児島唐琴2-2-53
TEL: 086-477-7162 FAX: 086-477-6620
<http://www.ohmiyaberi.co.jp>



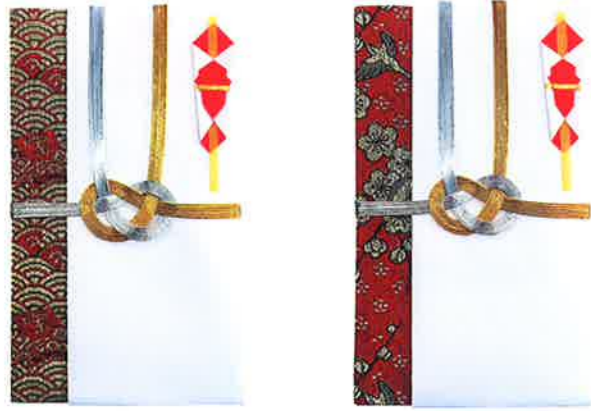
Kojima beri
JAPAN

縁結びの神様

祝儀袋

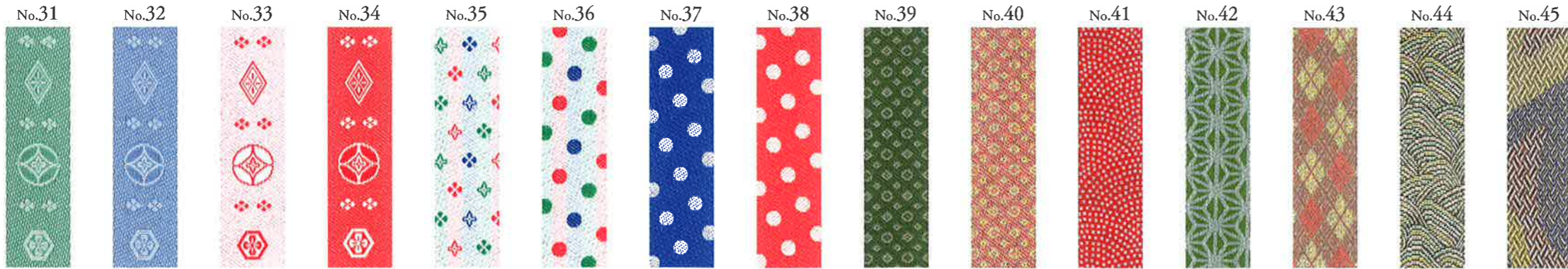
縁結びの神様

倉敷市児島は豊縁全国生産の80%を占めています。
和室の空間を美しく演出する豊縁、
1,000種類の中から選りすぐりの柄を配し祝儀袋を作りました。
豊縁の「縁」は、縁起物の「縁」、ご縁の「縁」、縁結びの「縁」、
大切な方々にご縁を結び、
ご縁を広げていくお手伝いをさせていただきたい、
「縁結びの神様」にはそんな思いが込められています。

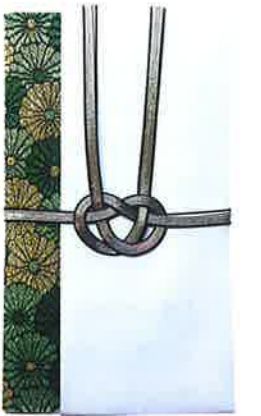


No.19

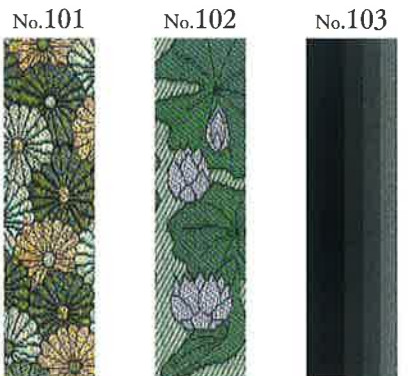
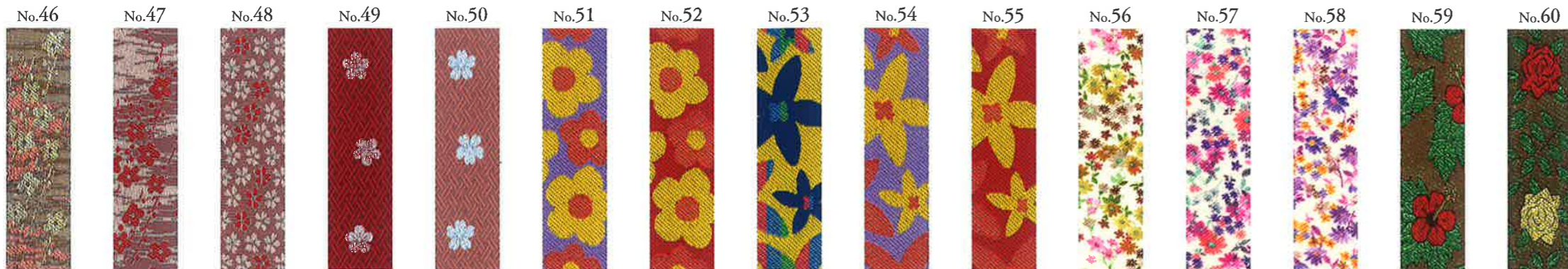
No.21



不祝儀袋も
取り揃えております



No.101



*「縁結びの神様」は、佐賀県・村山畳店さまからのご提案をヒントに作成いたしました。